

## 総務常任委員会報告事項資料

資料 番号	資 料 名	担 当 課
1	新総合計画の策定について	企画政策課
2	小田原市スーパーシティ構想について	デジタル イノベーション課
3	市有財産（ハイツ寿）の売却について	管 財 課
4	スマートフォン決済アプリを利用した 市税等の納付について	市税総務課
5	（仮称）国府津駅自転車駐車場建設 工事について	地域安全課
6	小田原消防署成田出張所の運用開始に ついて	消防総務課

令和3年4月22日

## 新総合計画の策定について

### 1 計画策定の趣旨

本市の市政運営は、新型コロナウイルス感染症対策を最優先課題としながら、これまでの市民力や地域力を生かしつつ「世界が憧れるまち“小田原”」を実現していくことを基本に進めてきた。これを明確に位置付けるため、平成23年度(2011年度)に開始した第5次小田原市総合計画「おだわらTRYプラン」の計画期間を1年前倒し、令和3年(2021年)3月に策定した2030ロードマップを基礎としつつ、ここで描いていない分野を含む市政運営全体のビジョンとして、令和4年度当初にスタートする第6次小田原市総合計画を策定する。

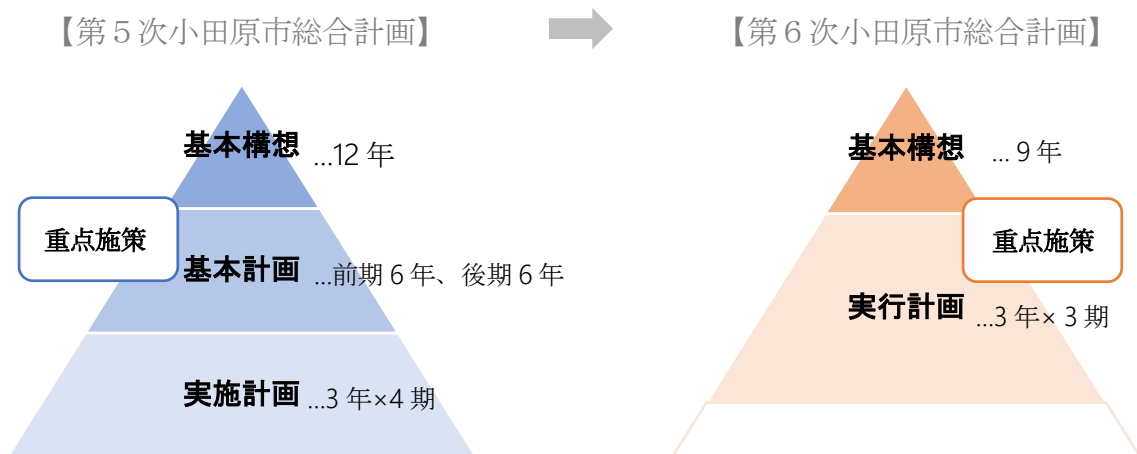
### 2 計画のねらい

第6次小田原市総合計画では、本市の将来像を「世界が憧れるまち“小田原”」と掲げ、その実現に向け、「豊かな環境の継承」という暮らしの土台に、「生活の質の向上」と「地域経済の好循環」の両輪を回していくことを基本とし、国内外から小田原に人や民間企業を呼び込み、結果として人口20万人規模の都市を目指していく。

ここでは、公民連携とデジタル技術の活用を、市政運営を力強く加速させていく推進エンジンとして、未来志向の課題解決の取組を積極的に展開していく。

### 3 計画の概要

これまで、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層としてきた本市総合計画の体系を、「基本構想」と「実行計画」の2層構造とし、基本構想により多様な主体が目標地点を共有しながら、基本計画と実施計画の要素を併せ持つ実行計画により、事業展開をより迅速に、かつ公民の枠組みを越えて機動的に地域の課題解決に取り組む。



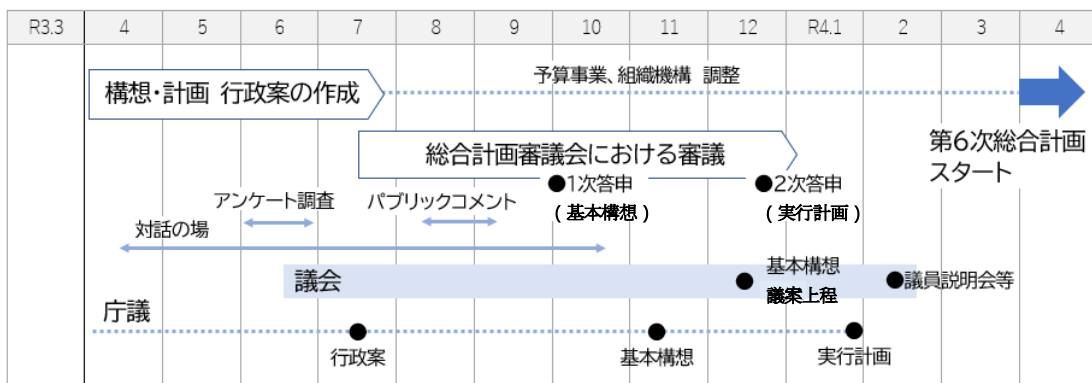
- ① **基本構想**：2030 ロードマップに掲げる基本的な考え方をもとに、計画期間を9年（令和4～12年度）とする基本構想を新たに策定する。基本構想では、**議決対象** 将来都市像「世界が憧れるまち“小田原”」のほか、「生活の質の向上」、「地域経済の好循環」、「豊かな環境の継承」の3つの柱を掲げ、まちづくりの指針とすることを想定している。
- ② **実行計画**：実行計画の計画期間を3年間とし、現行の総合計画において、施策体系を示す「基本計画」と事業体系を示す「実施計画」の要素を併せ持った計画として策定する。この計画体系と連動して、全庁的な組織・機構及び、計画・予算・評価事業のあり方について検討する。
- ③ **重点施策**：本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略やSDGs 未来都市計画との整合を図りながら、実行計画に重点施策を位置付ける。2030ロードマップに掲げる先導的な取組（医療・福祉、教育、企業誘致、環境・エネルギー、公民連携、デジタルまちづくり）等をもとに、「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向け、重点化が必要となる施策を取りまとめる。

#### 4 市民参画等

暮らしや経済の現場で実感されている市民や事業者等の意見や願いをしっかりと把握・集約し、計画に反映していくために、アンケート調査による意向把握、政策分野ごとの既存の審議会や会議体等を活用した対話の場、パブリックコメント等の意見募集を実施する。

加えて、学識経験者や各種団体の構成員等からなる総合計画審議会を設置し、基本構想及び実行計画に対し、大所高所からの意見を求める。

#### 5 策定の流れ



## 小田原市スーパーシティ構想について

## 1 小田原市スーパーシティ構想提出に係ること

## (1) 市民意見募集

今後、小田原市がデジタル化によるまちづくりを進めていくに当たり、実現を期待するデジタル技術を活用したサービスのアイデアを募集した。

募集期間	令和2年（2020年）12月18日～令和3年（2021年）2月1日
意見件数	18件

## (2) 市民との意見交換会

ア 本市のデジタル化及びスーパーシティ構想に関する市民との意見交換会について

開催日	時間	会場	参加人数
令和3年（2021年）4月10日	15時～16時	マロニエ	48人
	19時～20時	いずみ	19人
令和3年（2021年）4月11日	10時～11時	こゆるぎ	15人
	14時～15時	市役所	22人
	18時～19時	UMECO	8人
合計			112人

## イ 主な意見

- ・手続きに時間がかかりすぎて待たされた。デジタルで簡略にしてほしい。
- ・ネットで病院が見つかるなど生活が便利になってほしい。
- ・コスト面が不安。税金があがるのは避けてもらいたい。
- ・コロナ禍の中、市役所に手続きで小さな子を連れて行かなければならないこともあり、オンラインで済ませられたら便利だなと思うことがあった。一方でデジタルに抵抗のある、苦手な方がいるため、選択できるようなシステムになったらいい。
- ・デジタル化に賛成。全国の誇れる小田原市にしてほしい。
- ・個人情報のもれ出る可能性のあるシステムは反対。
- ・便利な社会になることは、とても喜ばしいことだが、100%完璧なシステムを構築するのは不可能です。個人情報もれた時やシステムが止まった時など即時対応したりセキュリティを強化したりと同時に準備を進めてほしい。
- ・スーパーシティ構想については、デジタルを使ってできることは、どんどんやってほしいが、命をもつ人間の意見は大事にしてほしい。
- ・スーパーシティのキックオフはよく理解できた。今後の進捗についても年ごとに説明会の開催を希望する。
- ・デジタル化は世界の流れの中で必然であり、今後の社会において大変重要な事柄と思う。既存の業務においては、デジタル化に遅れていることは否めないのが大変だと思うが、是非進めていただきたい。

### (3) パブリックコメント

本市がスーパーシティ構想で目指すまちのイメージに関するパブリックコメントを実施した。

募集期間	令和3年(2021年)3月1日～3月30日
意見件数	14件
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルを活用した便利で豊かな暮らしは否定するものではないが、個人情報保護が心配である。</li> <li>個人情報を取り扱うのは企業であり、最先端サービスは提供されるが、やはり不安がある。</li> <li>防災とエネルギー、交通の3分野に関しては納得がいく内容であった。デジタル化は、すでに優位さを持つ先進的な活動を加速するものとなるより、困難を感じている人々を救いあげる取組みであってほしい。</li> <li>市外からの来訪者の動きを可視化し分析して観光サービス事業者に提供することで、各社が独自にサービス案を開発しやすい環境を提供することなどはできないか。</li> <li>これまでのICTの発展は、あくまで機械側が主体で進展してきているものを何とか人間が使いこなしている様相。スーパーシティは、そうでなく、主体は人間で、人間と機械がお互いに発展、共生していく街を描くべき。そのためにやることは多い。</li> </ul>

### (4) アーキテクト(3名)

越塚 登 東京大学大学院 情報学環教授	立場：小田原市デジタル政策最高顧問 (令和3年(2021年)4月14日から) 役割：学術的な見地から小田原市のデジタル化全般に対する助言。
熊野 和久 ダッソー・システムズ株式会社 スマートシティ推進担当部長	立場：アーキテクト (令和3年(2021年)1月18日から) 役割：実務的な見地から各分野に対する助言。
別所 直哉 紀尾井町戦略研究所 代表取締役社長	立場：小田原市デジタル・エグゼクティブ・アドバイザー (令和2年(2020年)12月22日から) ※小田原市出身、ヤフー株式会社シニア・アドバイザー 役割：実務的な見地から各分野に対する助言。

## 2 スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に関する提案書の提出について

- (1) 提出日：令和3年(2021年)4月16日
- (2) 提出内容：別紙概要版(参考資料2-1)のとおり
- (3) 今後のスケジュール：

時期(予定)	対応内容
令和3年(2021年)4月	内閣府事務担当によるヒアリング
5月以降の予定	専門調査会(区域指定の原案検討)
	国家戦略特区諮問会議(区域指定の案の意見具申)
	政令閣議決定(区域指定)
	国家戦略特別区域指定後や重要な場面では、住民等に対する説明会を十分に実施していく

# 小田原市スーパーシティ構想（概要）

～縁ある人すべてを守り、未来を輝かせるクリーン&スマート城下町“ODAWARA”～

## 小田原市の概要

小田原市は、人口約189,000人。神奈川県の南西部に位置し、北西部を丹沢・箱根山系、南部を相模湾に囲まれた、県西地域の中心都市として知られています。



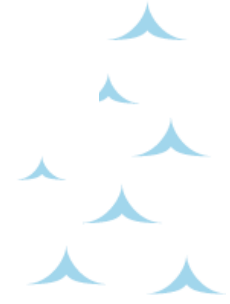
### 面積

113.60km<sup>2</sup>

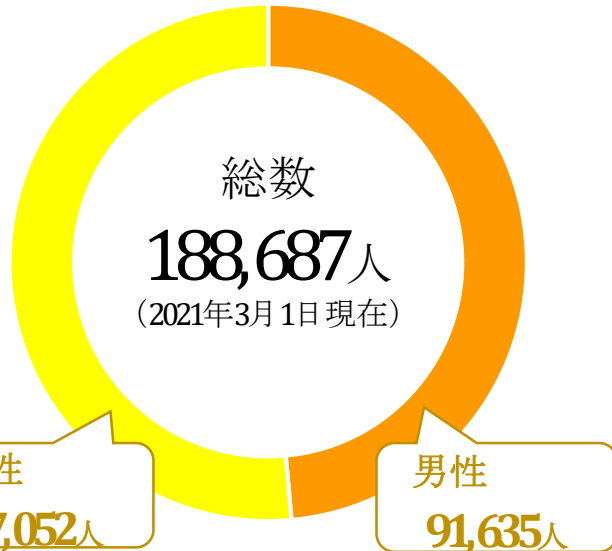
小田原市役所

北緯 35° 15' 53"

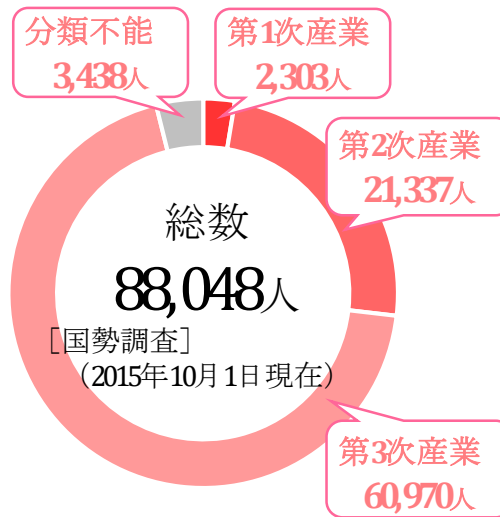
東経 139° 9' 08"



### 人口



### 就業者数



### 事業所

事業所数 7,763 従業員数 82,174人

### 製造品出荷額等

576,033 百万円  
出荷額 第1位の産業 情報機器

### 年間商品販売額

卸売業 172,330 百万円  
小売業 227,951 百万円

〔平成26年度経済センサス〕

参考資料2-1

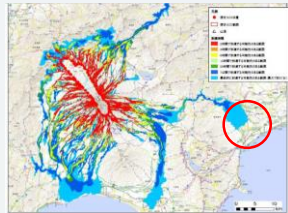
## 生命のリスク

□自然に恵まれた地形ゆえの  
**地震・火山・津波・水害リスク**

- 巨大地震発生率（今後30年）  
都心南部直下型地震及び南海トラフ巨大地震

発生確率 70%  
想定マグニチュード 7.3~9.0  
＜出典＞神奈川県地域防災計画

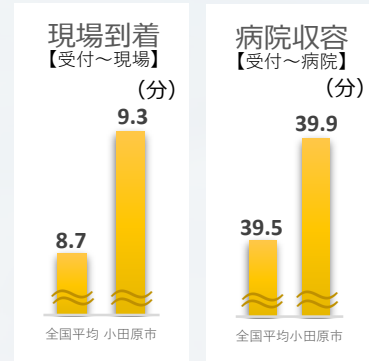
- 富士山火山災害  
市の一部が「火山災害警戒地域」に



＜出典＞富士山火山防災協議会  
大規模噴火時シミュレーション

□少子高齢化等による  
**医療福祉の負担増**

- 時間を要する救急搬送



＜出典＞平成30年小田原市消防本部  
救急集計データ

## 生活のリスク

□人口減少等による  
**社会インフラの弱体化**

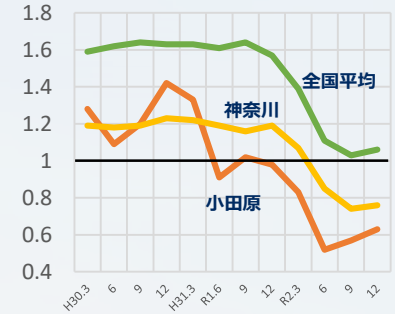
- 市内バス路線数の減少



＜出典＞酒匂川流域バスマップより  
(小田原を通る路線数をカウント)

□新型コロナウイルスによる  
**経済への悪影響**

- 雇用の不安定化  
(有効求人倍率の推移)



観光客の激減により、  
老舗かまぼこ店の倒産など、  
市の経済の大きなウェイトを占める  
観光業に大きな打撃

様々なリスクをきっかけとした**負のスパイラル**が起きつつある

公共サービスの利便性低下や  
市民所得の減少による  
**生活の質の低下**

歳入減少による**市の財政悪化**や  
景気低迷による**雇用情勢の悪化**

**負のスパイラル**

都市の魅力低下による  
**人口の流出、少子高齢化**

人口減少や産業空洞化による  
**地域経済の縮小**

# 一方で、小田原の持つポテンシャルが希望の芽を育てる・・・

## □ 地理的・歴史的資源に恵まれた日本有数の観光地



古くからの歴史を有する城下町・宿場町



近代史を代表する政財界人や文人墨客が集い、交流した魅力ある街並み



都心からの程よい距離と抜群の交通アクセス網



<東海道新幹線・JR東海道本線  
・小田急小田原線・充実した道路網>

## □ これまでの取り組み

### エネルギー政策先進都市

- ・地域マイクログリッド構築事業  
<経済産業省連携>
- ・炭素循環モデル構築実証事業
- ・EV活用地域交通モデル事業  
<環境省連携>

### 海外都市連携

- ・30年にわたる青少年相互交流  
<ノーザンビーチーズ市連携>
- ・ラグビーWC/オリンピックのトレーニング拠点の提供  
<オーストラリア代表連携>

### 公民連携

- 市内の個人・団体との連携蓄積
- と市内外の企業との協力関係の構築

## □ 最近の新しい動き



日本一スマート化された新市立病院の整備



関東学院大学・日本先端大学（仮称）のキャンパスを活用した新技術の開発



リモートワークが定着する中で、居住環境と都市へのアクセスを両立できる小田原への移住増

【人口の社会増減数推移】





小田原が有するポテンシャルに、デジタル技術とデータ活用をスーパーシティ構想に基づき総合的かつ計画的に組み合わせることで、縁ある人すべてを守り、未来を輝かせる「クリーン&スマート城下町“ODAWARA”」を実現します。

1

いのちと健康を  
**守る**



医療・防災・福祉

2

暮らしを  
**守る**



交通・観光・海外展開

3

未来が  
**輝く**



環境・教育・技術開発

世界が憧れるまち“ODAWARA”へ

# 小田原市の未来イメージ クリーン&スマート城下町 “ODAWARA”

## 【日本の小田原・世界の小田原】 誰もが楽しめる国際観光都市

- ・地域資源と新技術をマッチさせた美食のまち
- ・訪れやすく、動きやすい観光地を支えるEV
- ・複合現実も活用した未来型観光を提供



## 【日本一の環境都市】は 再生可能エネルギーが動かす

- ・耕作放棄地等を活用した発電・蓄電施設群
- ・EVカーシェアリングやオンデマンドバスで脱炭素社会に向かって疾走



## 【日本一スマート化され た市立病院】を中核 とした安心のまち

- ・顔認証やマイナンバーカードでスマート化された新市立病院と救急搬送
- ・衛星やドローンによる災害状況の把握とEV等によるライフラインの確保



## 【小田原から世界へ】 企業や市民が海外で活躍

- ・海外都市との信頼関係を基に、小田原の最先端のデジタル技術やまちづくりを海外に売り込む
- ・バーチャル交流で市民交流を強化



## 【小田原で育てよう】と思える 日本最先端の教育環境

- ・中学校での「デジタル(仮称)」科目創設
- ・教育現場に実務に通じたデジタル人材を配属
- ・オンラインを活用した充実の国際教育



## 【小田原は広大なラボ】技術開発 から実証実験まで一貫した環境

- ・意欲ある企業・研究者が関東学院大学、日本先端大学(仮称)で新技術を開発
- ・開発された技術の実証実験を市が支援

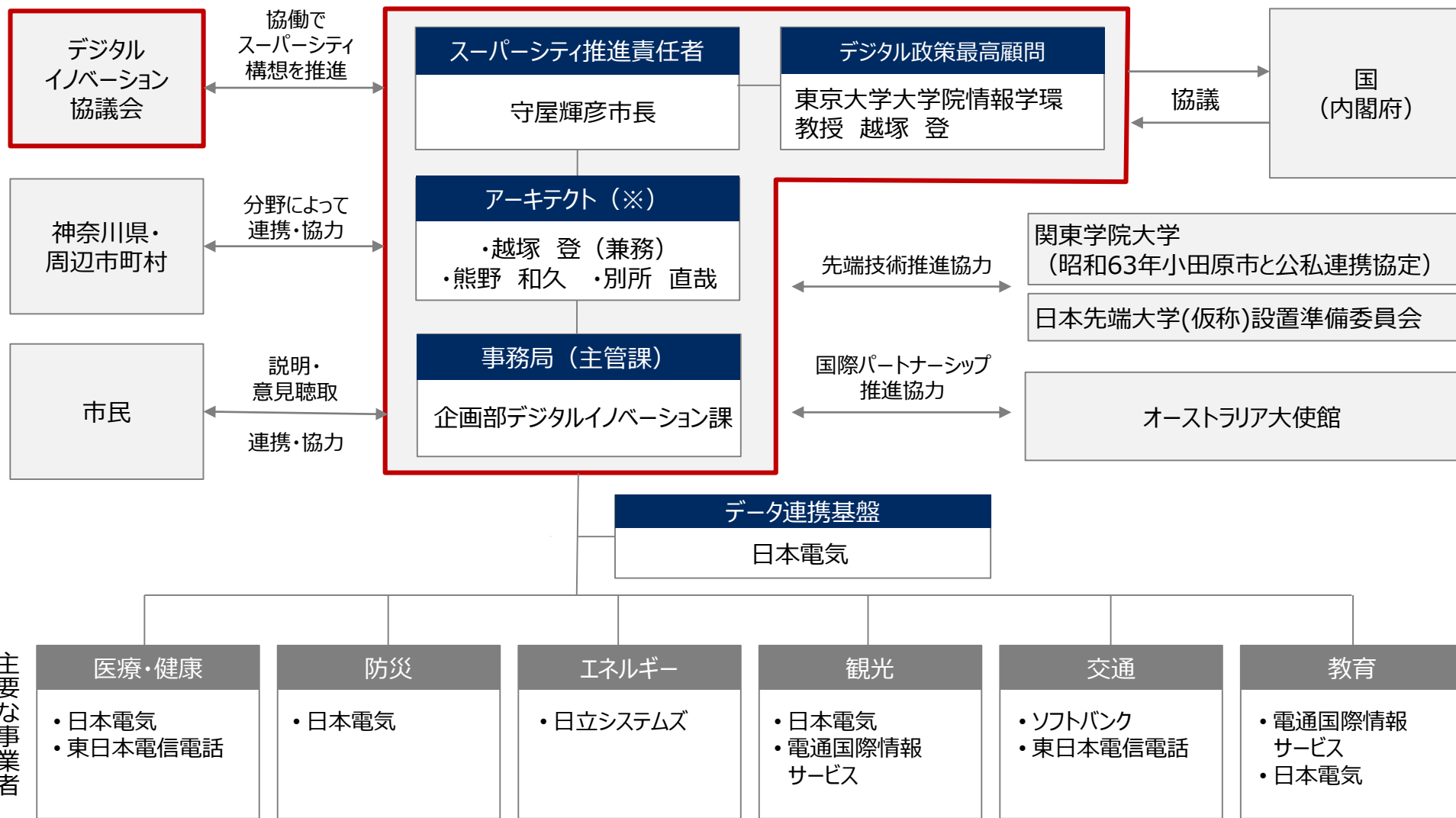


# 全体スケジュール

		立上げ・パイロットフェーズ ~2022	事業展開フェーズ ~2025	事業拡大フェーズ ~2030
実現している姿	小田原市	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安定的な事業運営を支える事業スキームの立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業スキームを中心として、人・事業者・金の流れが確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業スキームによる持続的かつ自律的な運営</li> </ul>
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス提供体制の立ち上げ</li> <li>■ モデルエリアでのサービスの順次提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個別サービスの収益化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業収益の安定化</li> <li>■ サービス参加事業者の拡大</li> </ul>
	市民等利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スーパーシティ構想への理解の深化</li> <li>■ サービス利用意向の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 先端的サービス活用によるベネフィットの享受</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ワークショップ・人材育成への参加などを通じ、スーパーシティ構想拡大への参加</li> </ul>
推進計画	先端的サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本構想策定</li> <li>• 規制改革(特例措置)の求め</li> <li>• 地場企業・店舗の巻き込み</li> <li>• サービス実証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• モデルエリアでの提供サービスの事業化</li> <li>• サービス利用者の声を反映したサービス改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サービス対象エリアの拡大</li> <li>• サービス提携事業者数の拡大</li> </ul>
	住民等の意向確認	意見交換会（※事業の進捗状況に応じて適宜実施）		
	データ連携基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データ連携基盤整備事業に関わる区域計画の策定</li> <li>• データ連携基盤構築および社会実装前の実証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データ連携基盤の運用（社会実装）</li> </ul>	

# スーパーシティ構想の推進体制①

## 小田原市



※ 今後事業の進展に伴い追加していく

(※) ・越塚 登 東京大学大学院情報学環 教授  
 ・熊野 和久 ダッソー・システムズ スマートシティ推進担当部長  
 ・別所 直哉 紀尾井町戦略研究所代表取締役社長

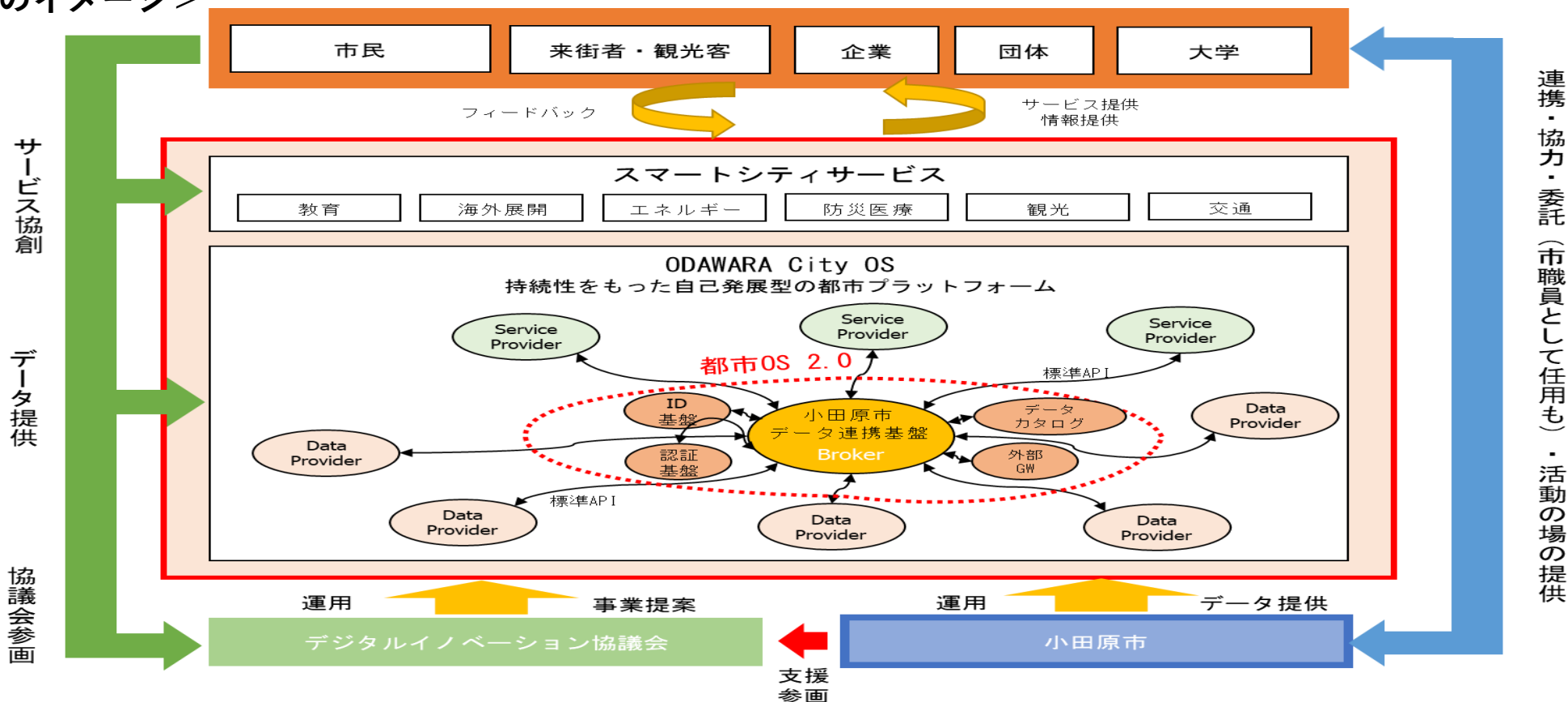
## スーパーシティ構想の推進体制②

データ連携基盤等構築後は、アーキテクト（越塚東京大学大学院教授）の指導を受けながら、仕様の標準化と個人情報保護に特に留意した上で、**意欲と能力のある企業・団体・個人が市と連携（シビックテックの支援等）**し、**機能・データの両面で更なる充実を図る。**

こうした取り組みを進めることで、**利便性（利用者目線での運用・改修）と経済性（運用経費の合理化）、そして持続性（皆で小田原のスーパーシティを支える）**を併せ持ち、**中小規模の市町村にとって最良のモデルとなるデータ連携基盤の運用体制を確保する。**

### <運用のイメージ>

【小田原スーパーシティエコシステム】



市のリードによる推進から、産官学民が連携した持続性のある推進体制（小田原スーパーシティエコシステム）へシフト

## 市有財産（ハイツ寿）の売却について

## 1 概要

市有財産（ハイツ寿）については、ヒルトン小田原リゾート&スパの社員宿舎として利用され、小田原ヒルトン株式会社と平成31年（2020年）1月まで賃貸借契約を締結していた。賃貸借契約の終了後、当該物件の利活用を含めて検討した結果、一般競争入札にて売却することが決定した。

## 2 土地及び建物の表示

所在	小田原市寿町四丁目 512 番、513 番		
土地	地目	宅地	地積 1,421.15 m <sup>2</sup>
建物	構造	①共同住宅：鉄筋コンクリート造スレート葺4階建 1階 395.46 m <sup>2</sup> 2階 395.46 m <sup>2</sup> 3階 325.08 m <sup>2</sup> 4階 240.18 m <sup>2</sup> 面積計 1,356.18 m <sup>2</sup>	
		②倉庫：鉄骨造鉄板葺平家建 24.48 m <sup>2</sup>	
	延床面積	1,380.66 m <sup>2</sup>	建築年月日 平成9年（1997年）9月29日 （築23年）

## 3 位置図



## 4 スケジュール

時期	対応内容
令和3年6月	広報活動・入札案内の配布
令和3年7月	入札
令和3年8月	売買仮契約締結
令和3年9月	財産処分の議決・本契約締結
令和3年9月～11月	物件引渡し（落札者からの入金確認後）

## スマートフォン決済アプリを利用した市税等の納付について

### 1 目的

納税者等の利便性の向上及び市税等の収納率向上を図るため、スマートフォン決済アプリを利用した市税等の納付を新たに導入する。

### 2 利用可能アプリ

PayPay、LINE Pay、はま Pay、ゆうちょ Pay

### 3 対象となる税目・料金

市県民税（普通徴収）、固定資産税・都市計画税、軽自動車税（種別割）、国民健康保険料（普通徴収）、保育所保育料、学校給食費、水道料金・下水道使用料

### 4 導入日

令和3年（2021年）5月1日

### 5 利用できる納付書

- (1) 納付書1枚当たりの金額が30万円以下のもの  
(LINE Pay での水道料金・下水道使用料の支払いについては、5万円未満のもの)
- (2) バーコードが印刷されているもの
- (3) 取扱期限が到来していないもの

### 6 手数料

市負担 ※データ通信料は利用者負担

### 7 周知方法

市広報紙、市ホームページ・市 SNS、納税通知書、報道機関への情報提供

### 8 その他

LINE 株式会社が提供する「LINE」について、日本国外での個人情報管理に関する報道があったことを踏まえ、本市のスマートフォン決済における「LINE Pay」の取扱いは、次の2点を総合的に判断し、導入する。

- (1) 「LINE Pay」について、外部からの不正アクセスや情報漏洩は発生していないとの報告を受けたこと
- (2) 「LINE Pay 請求書支払い」については収納情報に個人を特定できる情報を含んでいないこと

また、LINE Pay 請求書支払いの利用が不安な市民に対し、当該支払い以外の納付方法を案内する。

なお、国の調査結果等により、本市の取扱いを変更する必要がある場合は、速やかに対応する。



24時間365日  
自宅ですべて  
簡単に  
納付できます!

# 小田原市の市税等が PayPayで 納付できます!

5月1日(土)  
から!



必要なものは“スマートフォン”と“PayPayアプリ”だけ!  
PayPayアプリのダウンロードはこちら▶

【対象】市県民税（普通徴収）、固定資産税・都市計画税、軽自動車税（種別割）  
国民健康保険料(普通徴収)、保育所保育料、学校給食費、水道料金・下水道使用料

**STEP 1**

アプリのホーム画面にある  
「スキャン」をタップ



**STEP 2**

払込票の  
バーコードを読み取る



**STEP 3**

支払金額を確認し  
「支払う」をタップ



カンタン/  
3ステップで  
納付完了!



※お支払いはPayPay残高のみとなります。  
クレジットカードでのお支払いはできませんので  
予めご了承ください。

PayPayアプリ  
ダウンロード後の  
設定方法は



お知らせ

▶ **領収証書や車検用納税証明書は発行されません!**  
お手元に必要な方は、金融機関やコンビニ等で納付してください。

▶ **次の納付書は PayPay では納付できません!**

- ・金額が30万円を超える納付書
- ・バーコードの印刷がない納付書
- ・金額を手書きで訂正した納付書
- ・取扱期限を過ぎた納付書
- ・破損や汚損によりバーコードが読み取れない納付書



## 問合せ先

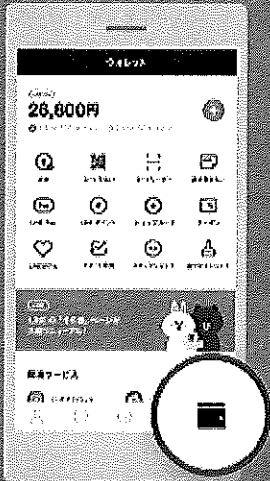
税目・料金	問合せ先
市県民税（普通徴収） 固定資産税・都市計画税 軽自動車税（種別割）	市税総務課 ☎ 33-1341
国民健康保険料（普通徴収）	保険課（保険料係） ☎ 33-1832
保育所保育料	保育課 ☎ 33-1451
学校給食費	学校安全課 ☎ 33-1694
水道料金・下水道使用料	上下水道局料金センター ☎ 41-1211

※PayPayによるお支払い後の納付書での二重の納付にご注意ください

小田原市の市税等が

5月1日(土)から

LINE Payで納付可能になります！



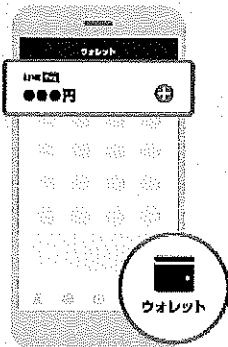
登録がお済みでない方はこちらから。

LINE アプリ内ウォレットタブ上部から登録できます。▶



【対象】市県民税（普通徴収）、固定資産税・都市計画税、軽自動車税（種別割）  
国民健康保険料(普通徴収)、保育所保育料、学校給食費  
水道料金・下水道使用料

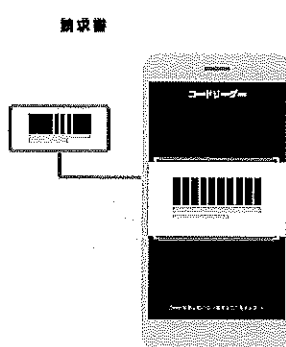
請求書のお支払い方法



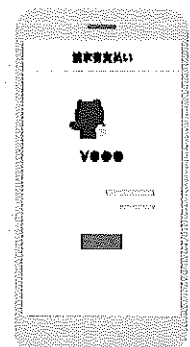
LINEアプリの「ウォレット」を開いて  
LINE Pay残高をタップ



LINE Payメインメニューにある  
「請求書支払い」をタップ



立ち上がったコードリーダーで  
お手元の請求書のバーコードを読み込む



内容を確認して  
支払い完了!

※お支払いには事前にLINE Payへのご登録とチャージが必要です。

お  
知  
ら  
せ

▶領収証書や車検用納税証明書は発行されません！

お手元に必要な方は、金融機関やコンビニ等で納付してください。

▶次の納付書はLINE Payでは納付できません！

- ・金額が30万円を超える納付書※
- ・金額を手書きで訂正した納付書
- ・破損や汚損によりバーコードが読み取れない納付書
- ・バーコードの印字がない納付書
- ・取扱期限を過ぎた納付書

※金額が5万円以上の水道料金・下水道使用料の納付書は、納付できません。

## [問い合わせ先]

税目・料金	問合せ先
市県民税（普通徴収） 固定資産税・都市計画税 軽自動車税（種別割）	市税総務課                      ☎ 33-1341
国民健康保険料（普通徴収）	保険課（保険料係）              ☎ 33-1832
保育所保育料	保育課                              ☎ 33-1451
学校給食費	学校安全課                      ☎ 33-1694
水道料金・下水道使用料	上下水道局料金センター      ☎ 41-1211

※LINE Pay によるお支払い後の納付書での二重の納付にご注意ください

# 小田原市の市税等が

5月1日（土）から

スマホでいつでもどこでも簡単納付！

「はまPay」で納付できます！

「ゆうちょPay」でも納付できます！



はまPay、ゆうちょPayによるお支払い後の店頭等での二重の納付にご注意ください。

【対象】 市県民税（普通徴収） 固定資産税・都市計画税  
軽自動車税（種別割）  
国民健康保険料（普通徴収）、保育所保育料  
学校給食費、水道料金・下水道使用料

領収証書や車検用納税証明書は発行されません。必要な方は納付書の裏面に記載のある金融機関やコンビニ等の窓口でお支払ってください。  
裏面にある「お知らせ」をよく読んでからご利用ください。

## はまPayのダウンロードはこちら！



■ iOSをご利用の方



※外部ストアへリンクします。



■ AndroidOSをご利用の方



※外部ストアへリンクします。



・ Android、Google Play、Google Playロゴは、Google LLC.の商標です。  
・ iOS、AppleおよびAppleロゴは、米国その他で登録されたApple Inc.の商標です。App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。

「はまPay」は横浜銀行が提供するスマホ決済サービスです。

納付手順は裏面をご確認ください

【お問い合わせ先】

はまPayサポートデスク

☎0120-084-580 平日 8:30~21:00  
土日祝 9:00~17:00

## ゆうちょPayのダウンロード・操作方法はこちら！



ゆうちょPay

詳しい操作方法等は右記のQRコードからご確認ください。

「ゆうちょPay」はゆうちょ銀行が提供するスマホ決済サービスです。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



ゆうちょPayに関するお問い合わせ ゆうちょPayサポートデスク

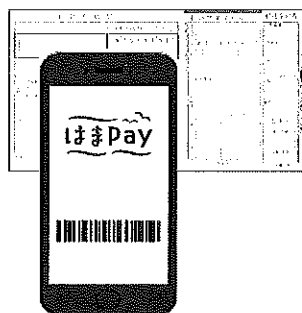
☎0120-387-186

(12月31日~1月3日は、9:00~17:00)

## 納付手順

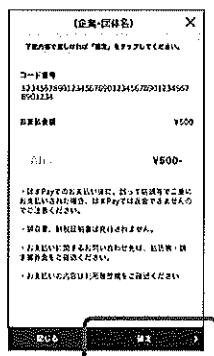
STEP 1

アプリを起動し「お支払い」からバーコード読み取り



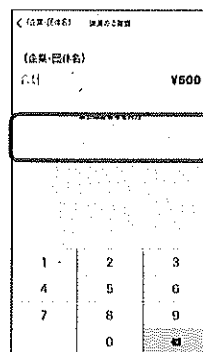
STEP 2

お支払い内容、金額を確認、「確定」を選択



STEP 3

取引暗証番号を入力

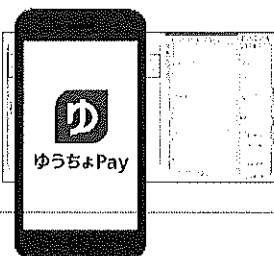


3ステップで納付完了!



初期設定の利用上限金額は0円で設定されています。ご利用の際は、利用上限金額の設定が必要です。アプリ右上のメニューから「設定」>「お支払い口座の設定」>「1日に利用できる上限金額」から10万円以内で設定可能です。

※画像はイメージです。各画面の内容は変更になる場合があります。



**ゆうちょPay** でも納付が可能!

バーコードを読み取り、お支払い内容、金額を確認後、暗証番号を入力を入力 詳しい操作方法は、ゆうちょ銀行HPをご確認ください。

はまPay、ゆうちょPayによるお支払い後の店頭等での二重の納付にご注意ください。

お知らせ

▶ **領収証書や車検用納税証明書は発行されません!**

お手元に必要な方は、金融機関やコンビニ等で納付してください。

▶ **次の納付書でははまPay、ゆうちょPayでは納付できません!**

- ・金額が30万円を超える納付書
- ・バーコードの印刷がない納付書
- ・金額を手書きで訂正した納付書
- ・取扱期限を過ぎた納付書
- ・破損や汚損によりバーコードが読み取れない納付書

## 問合せ先

税目・料金	問合せ先
市県民税（普通徴収） 固定資産税・都市計画税 軽自動車税（種別割）	市税総務課 ☎ 33-1341
国民健康保険料（普通徴収）	保険課（保険料係） ☎ 33-1832
保育所保育料	保育課 ☎ 33-1451
学校給食費	学校安全課 ☎ 33-1694
水道料金・下水道使用料	上下水道局料金センター ☎ 41-1211

## (仮称) 国府津駅自転車駐車場建設工事について

## 1 概要

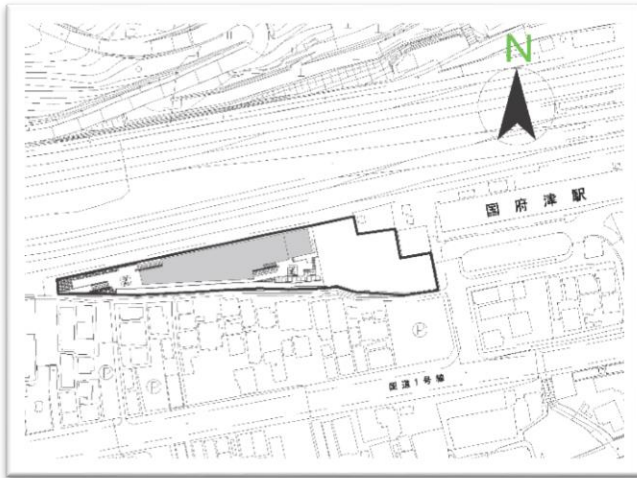
(仮称) 国府津駅自転車駐車場建設工事については、令和3年(2021年)2月から造成工事等を進めてきたところ、想定していなかった地下埋設物を確認したため、支障となる地下埋設物の調査及び撤去等を行っている。

これらの作業については、おおむね令和3年(2021年)6月までかかる見込みであり、同年9月定例会に工事請負契約の変更に係る議案を上程する予定である。

工事名	(仮称) 国府津駅自転車駐車場建設工事
工事場所	小田原市国府津四丁目 1265 番 12 の一部ほか
工期	令和2年(2020年)12月11日から360日間 (令和3年(2021年)12月5日まで)
受注者	松浦建設・三心特定建設工事共同企業体
契約金額	449,684,400円
供用開始	令和4年(2022年)4月(予定)

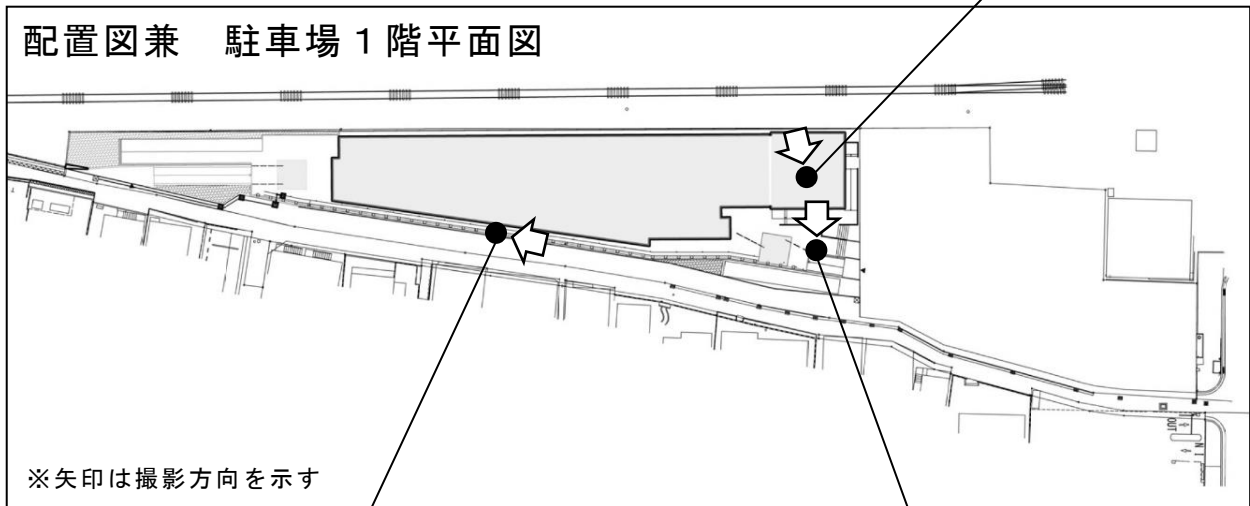
## 2 今後のスケジュール(案)

時期	工事工程	対応内容
令和3年(2021年)4月	掘削	地下埋設物の調査及び撤去等
5月	杭工事	
6月	基礎工事	
7月		地下埋設物の調査及び撤去等に要する費用の算定
8月	建物工事 外構工事	事件議案(工事請負契約の変更)の上程
9月		
10月		
11月	工事完了	
12月		
令和4年(2022年)4月	供用開始	

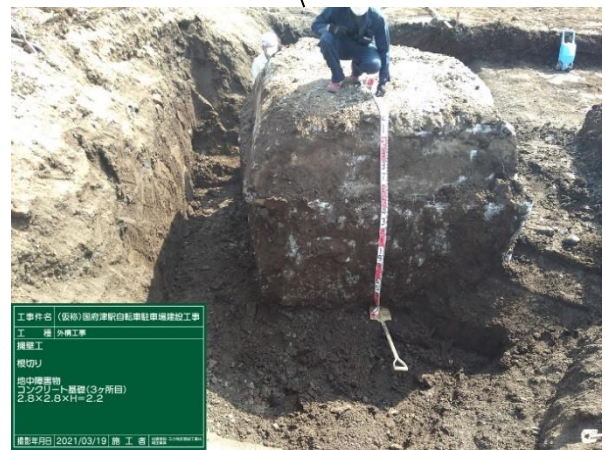


付近見取図

No. 1



No. 2



No. 3

## 小田原消防署成田出張所の運用開始について

### 1 事業概要

令和元年度（2019年度）から整備を進めてきた小田原消防署成田出張所の新庁舎が竣工し、令和3年（2021年）2月16日（火）から運用を開始した。

新庁舎は、耐震構造としたほか、非常用発電設備の整備により、大規模災害発生時においても継続的な消防サービスが提供できる機能を備え、地域の防災拠点として広域的な消防業務を行っていく。

### 2 施設概要

- |             |   |
|-------------|---|
| (1) 建設地     | 小田原市成田 923 番地 2   |
| (2) 構造      | 鉄筋コンクリート造（地上 2 階）   |
| (3) 延床面積    | 1,116.21 m <sup>2</sup> （1 階：683.9 m <sup>2</sup> 2 階：432.31 m <sup>2</sup> ）   |
| (4) 配置部隊    | 消防隊：1 隊、救急隊：1 隊   |
| (5) 配置人員    | 20 人  |
| (6) 配置車両    | 消防ポンプ自動車 2 台、救急自動車 2 台、<br>資機材搬送車 1 台、支援車（災害活動支援） 1 台   |
| (7) 電話番号    | 37-0119   |
| (8) 主な新しい機能 | ア 非常用発電設備（72 時間連続稼働）<br>イ 雨水利用システム<br>（トイレ洗浄水や訓練用水に利用可能）<br>ウ 汚水貯留システム（汚水を一時的に貯留可能）<br>エ 庁舎を活用した訓練施設<br>（放水壁、連結送水管、屋内訓練室等）<br>オ 女性消防職員用スペース |



外観



車庫内観



事務室



訓練室